

学校の在り方地区検討委員会（三八地区）

【第4回】概要

日時：令和8年5月15日（金）

13：30～16：00

場所：八戸グランドホテル 1階プルミエ

<出席者>

原 委 員、尾形委員、高橋委員、今井委員、布施委員、岡本委員、三橋委員
佐々木原委員、一戸委員、米内山委員（進行役）

代理

佐藤氏（齋藤委員代理）、房間氏（後藤委員代理）

1 開会

2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

参考：学校配置シミュレーション

ア：八戸西高校・三戸郡を除く高校の学級減で対応した場合

イ：職業学科を除く学科の学級減で対応した場合

ウ：学科の統合による学級減で対応した場合

エ：八戸西高校及び八戸商業高校の学級減で対応した場合

オ：八戸商業高校及び普通科を有する高校の統合で対応した場合

カ：八戸水産高校、八戸工業高校及び八戸商業高校の統合で対応した場合

キ：八戸北高校及び八戸東高校の統合で対応した場合

○ 前期実施計画の策定に向けたスケジュールについて説明いただきたい。

→（事務局）前期実施計画については令和8年11月頃の策定を目指しているが、その数か月前には本検討委員会の報告書を踏まえた前期実施計画（案）を公表し、第5回会議で内容を確認していただく。

3 意見交換

（1）学校の在り方に関する主な意見

○ これまでの検討内容が記載されており、修正等は不要である。

進行役から、ほかに修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

(2) 全日制課程の学校規模・配置について

① 学校配置シミュレーション

◇ ア～エの案に関する意見

- アの案について、三戸高校と名久井農業高校は全国からの生徒募集や地域と連携した特色ある活動を進めていることも踏まえ、学校規模を維持してほしい。
三戸郡では私立高校への単願による入学を希望する中学生が増加していることから、学級減の検討に当たっては、そのような動向も注視する必要がある。
- 三戸郡の生徒の通学の利便性を考慮し、アの案がよい。
- 削減学級数を踏まえると、前期実施計画では学級減で対応するのがよい。普通科と職業学科からそれぞれ1学級減としているエの案がよい。
- 前期実施計画では学級減で対応し、後期実施計画では統合等を含めた再編を行うのがよい。公平性を考えると、普通科と職業学科からそれぞれ1学級減することが考えられる。
- 前期実施計画では学級減で対応するのがよく、アの案かエの案がよい。
- 前期実施計画では学級減で対応するのがよい。統合等を含めた再編については、令和14年度の入学生から順次実施される次期学習指導要領の内容を踏まえ、後期実施計画で行うのがよい。
地元の産業につながる学びを提供する高校を維持する必要があることや、生成AIの普及等により普通科の学びの価値が下がっていく懸念があることを踏まえると、アの案かイの案がよい。
- 前期実施計画では学級減で対応するのがよい。家庭の経済状況によっては、高校段階までに就職に向けたスキルを身に付ける必要があることから、イの案がよい。
- 前期実施計画では学級減で対応しつつ、後期実施計画での統合等を含めた再編に向けて早めに検討を開始するのがよい。ア～エの案を組み合わせればよい。
- 三戸郡の保護者のニーズに対応するためにはアの案がよい。
- 1学科1学級となっている学科の学級減については、生徒や教職員、地域の産業への影響が大きく、また、普通科については中学生のニーズが高いことを踏まえると、エの案がよい。
- 保護者は通学面を重視するため、三戸郡の高校は残すとともに、八戸西高校の5年間の平均倍率が地区内で一番高いことを考えると、アの案がよい。

進行役が委員の意見を総括し、アとエの案を報告書へ掲載することとして委員へ投げかけたところ承認された。

◇ オ～キの案に関する意見

前期実施計画では学級減で対応するとの意見が多数であることを踏まえ、オ～キの案は報告書へ掲載しないこととした上で、後期実施計画に向けた検討材料として統合等に向けた意見交換を行うこととして委員に投げかけたところ承認された。

- 普通科同士の統合ではなく、普通科と特色ある学科が併置されるような統合がよい。
- 統合に当たっては、高校の特色や育成を目指す人財像、学科の連携先をどのように設定するかが重要である。
- 普通科同士又は職業学科同士で統合し、ある程度大きい規模の統合校を設置するのがよい。
普通科については、高校の立地や生徒の通学環境を考慮しながら、八戸市内の4校を3校に集約することが考えられる。
職業学科については、1校に集約することが考えられる。
- 普通科と職業学科を統合する場合、職業学科の特色を維持する観点から、普通科の学級数を優先的に減らすのがよい。
- 高校はある程度の学校規模が必要であり、後期実施計画での統合は避けられない。
- 普通科と職業学科は異なる部分が多いため、普通科と職業学科の統合は難しいという話を聞く。統合を進めるのであれば、後期の5年間の中でもどのように進めていくか、早めに情報を出していく必要がある。
- 統合に当たっては、生徒の通学環境を考慮する必要がある。
また、本県では社会減が著しいことから、統合校においては、私立高校や高等教育機関、地元企業との連携を通じて地元の魅力を知ってもらい、地元に着住してもらう仕組みづくりが必要である。
さらに、統合校においては、インターンシップ、フィールドワーク等の活動を通じて、生徒が知識・技能の習得を実感できるようなカリキュラムを編成してほしい。
- 八戸水産高校、八戸工業高校及び八戸商業高校の統合により、地元に着住し、生産から流通までの課題を解決する人財の育成が期待される。
また、八戸水産高校の校舎は海の近くであることが必要であるため、八戸工業高校と八戸商業高校を統合することで通学の利便性を確保しつつ、八戸水産高校とは

授業で連携することも考えられる。

- 募集学級数がいきなり大きく減少すると混乱を招くことから、統合と学級減を組み合わせて実施することにより、徐々に学級数を減らしていくことが考えられる。
統合を行う上での観点として、普通科同士又は職業学科同士で統合するのがよいと考えるほか、校舎の建て替えの時期についても考慮する必要がある。
また、私立高校には入学後に学科の変更を認める仕組みがあることから、複数の職業学科を有する統合校を設置する場合には、同様の仕組みを整備することが考えられる。
- 学級数の推移を踏まえると、後期実施計画ではダイナミックな学校配置を考える必要がある。今後は多くの小規模校を維持するよりも大規模校を設置するメリットの方が大きくなるのではないかと。
統合を行う上での観点として、大学進学に向けた基礎を習得できるようにするとともに、地元で活躍できる人財を育成できるようにする必要がある。

② シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見

- 新普通科については卒業後の進路について検討する必要があり、地元就職につながるような社会との接点づくりを行うことが考えられる。

(4) 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

(5) その他

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

本日の意見交換を踏まえ報告書を整理し、委員へ書面で確認した後、最終的な確認は進行役一任とすることで委員から承認された。

4 閉会